

平成25年度 学校関係者評価書

学校名	和歌山市立広瀬小学校
作成日	平成26年 2月1日

1 教育目標

たくましく豊かに生きぬく子を育てる

2 学校の自己評価についてのご意見

	地域との連携	心の豊かな子どもを育てる	よく考える子どもを育てる
重点目標に対する意見	広瀬地区では、地域との連携を根拠とした子育ては欠かせません。本年度は、開校140周年の記念式典や記念事業が行われる年です。学校やPTA、各種団体、自治会が一緒になって取り組む機会が数多くあります。地域との連携は、大切な目標の一つです。	広瀬小学校では、「優しい」という子どもたちの実態を基本にした「心の豊かさ」に取り組んでいるとお聞きました。この取組は、人権教育や道徳教育にも繋がるものだと思います。地区の人権委員会でも委員長を柱に、研修会や現地学習会に積極的に参加しています。	算数や国語などの教科の学習だけでは、思考力は育たないと思います。広瀬小学校では、教科の学習に付け加えて、特別活動においても思考力を育てているとお聞きました。子どもたちが将来に活かせる力は、教育全般で育った力だと思います。
取組の状況に対する意見	広瀬地区には、「花見の会」「お年寄りのお食事会」「七夕祭り」「盆踊り」「ハイキング」等、地域と学校を連携させた取組がたくさんあります。子育てにおいても、「見守り隊」をはじめ地域の協力が数多く見られます。社会の状況から、地域が一丸となった子育ての必要性を感じます。	子どもたちの下級生に対する優しさは、登下校の様子から伺えます。運動会でも、1年生から6年生までの縦割りのグループにおいて、高学年の子どものリーダー性を感じました。お隣の芦原小学校との交流会や「なかよし活動」などの心を育てる活動に、平素から取り組んでいるからだと感じました。	子どもたちが自主的に活動する集会や「なかよし活動」の計画、運営に際して、友だちとの意見交換や練り直しの時、考える力が必要となります。その時の思考は、子どもたちが将来に向けて活かせる思考力だと思います。教科の学習で培う思考力と並行した育ちがあることで、本当の意味の考える力が身に付くのだと思います。
検証結果に対する意見	平成25年度は、学校と地域が連携して140周年事業を成功させることが大きな課題でした。自治会長さんや各種団体長さんの協力のお陰で、記念式典や記念カプセルの埋設、他の記念事業を無事行うことができました。広瀬地区は、あらゆる行事や事業を地区全体で取り組む地域です。今年の140周年事業で、そのことが確認できてよかったと思います。	1学期に、地区のお年寄りを学校に招待する「お年寄りのお食事会」に参加させていただきました。その際、6年生が呼びかけと歌を披露してくれました。そして、3年生と4年生が手作りのプレゼントをお年寄りの皆さんに手渡してくれました。その姿や様子から、優しさや心を込めたものが伝わってきました。同じく、運動会においても高学年の子が低学年の子に配慮する様子が伺われました。	国が実施している学力状況調査では、6年生の平均が算数Bの応用面で国や県の平均を上回っていたとお聞きました。特別活動での思考力を伸ばす取組だけでなく、教科の学習においても熱心に取り組んでいる様子をうかがうことができよかったと思います。
改善方法に向けての意見	140周年事業の計画から準備、運営等に向けて取り組む中で、地域の学校への協力的な心と体制を感じました。現在、薄れてきつつある「愛校心」が根付いた地域だといえます。このことを土台に、今後すばらしい子育てが行われる地域であり、学校であることを願っています。	今年度、地域からの子どもたちの行動や行いに対する苦情が一件もなかったことをお聞きました。子どもたちが素直に成長していること、地域の皆さんが子どもたちの悪い行いにはその場で注意したり叱ったりしてくれていることなど、子どもたちの心に響く地域が一丸となった子育てを感じます。これからの成長を、地域で見守りたいと思います。	学校での学習、特別活動での活動。そして、放課後や休日の地域や家庭で過ごす時間。すべての中で、考える力を養う取組が今後も必要です。子育てを家庭だけに、学校だけにお任せするのではなく、学校の教育目標やねらいに合わせた地域全体の取組が必要な時期にきていると感じます。

3 その他のご意見

児童数が、年々減少している広瀬小学校。とても寂しい気持ちになります。しかし、少ない児童数の中で、文化的な面に力を発揮している子、スポーツに積極的に取り組んでいる子などの報告をよく耳にします。少年野球団「バンビ」でも、広瀬小学校と連携して体だけでなく心や精神を鍛える取組が見られます。子ども一人一人の持っている力は、計り知れないものがあります。その力が発揮できる環境と場を保障したいものです。